

PAT-NO: JP357043948A

DOCUMENT-IDENTIFIER: JP 57043948 A

TITLE: PLATINUM ALLOY FOR ORNAMENTAL PRODUCT

PUBN-DATE: March 12, 1982

INVENTOR-INFORMATION:

NAME

TAMEMASA, HIROSHI

TAKIGUCHI, FUJIMATSU

ASSIGNEE-INFORMATION:

NAME

COUNTRY

TANAKA KIKINZOKU KOGYO KK

N/A

APPL-NO: JP55119488

APPL-DATE: August 29, 1980

INT-CL (IPC): C22C005/04

US-CL-CURRENT: 420/466

ABSTRACT:

PURPOSE: To provide a platinum alloy for an ornamental product with excellent mechanical strength and casting property comprising compounding Pd, Co and one or more among Ge, Si, Zr, Ti, W, Mo, V in a specific amount.

CONSTITUTION: Said Pt alloy for an ornamental product comprises, in the w/o basis, 84~96 Pt, 1~13 Pd, 0.01~1 Co and 1.5~5 one or more among Ge, Si, Zr, Ti, W, Mo V. A content of Pd is preferably 1~13 w/o from a standpoint of mechanical strength, cost, corrosion resistance, casting property or the like and, when an adding amount of Co is below 0.01 w/o, the extent of enhancement of mechanical strength and casting property is small and, when exceeds 1 w/o, discoloration is generated or sweat resistance is reduced when annealing is carried out in the air. One or more among Ge, Zr, Ti, W, Mo, V is added for the reason that those elements form an intermetallic compound with Pt and mechanical strength is enhanced.

COPYRIGHT: (C)1982,JPO&Japio

DERWENT-ACC-NO: 1982-31976E

DERWENT-WEEK: 198216

COPYRIGHT 1999 DERWENT INFORMATION LTD

TITLE: Ornamental platinum-palladium-cobalt alloy - contains at least one of germanium, silicon, zirconium, titanium, tungsten, molybdenum or vanadium

PATENT-ASSIGNEE: TANAKA KIKINZOKU KK[TANI] , TANAKA KIKINZOKU KOGYO KK[TANI]

PRIORITY-DATA: 1980JP-0119488 (August 29, 1980)

PATENT-FAMILY:

PUB-NO	PUB-DATE	LANGUAGE	PAGES	MAIN-IPC
JP 57043948 A	March 12, 1982	N/A	002	N/A
JP 89032298 B	June 30, 1989	N/A	000	N/A

APPLICATION-DATA:

PUB-NO	APPL-DESCRIPTOR	APPL-NO	APPL-DATE
JP 57043948A	N/A	1980JP-0119488	August 29, 1980

INT-CL (IPC): C22C005/04

ABSTRACTED-PUB-NO: JP 57043948A

BASIC-ABSTRACT:

Ornamental platinum alloy, which consists by wt. of Pt 84-96%, Pd 1-13%, Co 0.01-1% and at least one of Ge, Si, Zr, Ti, W, Mo and V 1.5-5% in total.

The Ge, Si, Zr, Ti, W, Mo or V forms intermetallic cpd. with Pt to lower m.pt. of the melt and harden the material without deteriorating its sweating resistance so that it is much more improved in mechanical strength. Further, the new ornamental alloy is excellent in discolouring resistance.

TITLE-TERMS: ORNAMENT PLATINUM PALLADIUM COBALT ALLOY CONTAIN ONE GERMANIUM
SILICON ZIRCONIUM TITANIUM TUNGSTEN MOLYBDENUM VANADIUM

DERWENT-CLASS: M26

CPI-CODES: M26-B01; M26-B01N;

⑨ 日本国特許庁 (JP)

⑩ 特許出願公開

⑫ 公開特許公報 (A)

昭57-43948

⑤ Int. Cl.³
C 22 C 5/04

識別記号
CCG

庁内整理番号
7920-4K

⑬ 公開 昭和57年(1982)3月12日

発明の数 1
審査請求 未請求

(全 2 頁)

⑭ 装飾品用白金合金

⑯ 特 願 昭55-119488

⑰ 出 願 昭55(1980)8月29日

⑱ 発 明 者 為政博史

東京都中央区日本橋茅場町2丁目14番地3田中貴金属工業株式会社内

⑲ 発 明 者 滝口藤松

東京都中央区日本橋茅場町2丁目14番地3田中貴金属工業株式会社内

⑳ 出 願 人 田中貴金属工業株式会社

東京都中央区日本橋茅場町2丁目14番地3

明 細 書

1. 発明の名称

装飾品用白金合金

2. 特許請求の範囲

白金84～96%、パラジウム1～13%、コバルト0.01%以上で1%未満及びグルマニウム、シリコン、ジルコニウム、チタン、タングステン、モリブデン、バナジウムの少なくとも1種総量で1.5～5%よりなる装飾品用白金合金。

3. 発明の詳細な説明

本発明は、指輪、ネックレス、ブローチ、ネクタイピン、カフスボタン、時計枠、時計バンド、ライター、筆記具、眼鏡枠、イヤリング等の材料として使用する白金合金の改良に関するものである。

従来、上述の如き装飾品の材料としては白金-パラジウム(5～15%)合金が多用され、その他白金-パラジウム-銅合金が使用されている。然し乍ら前者の白金-パラジウム(5～15%)合金は加工性、耐汗性、耐変性、鋳造性に優れて

いるが、機械的強さ特に硬さが低い為研磨中にすり傷、押傷が付き易く且つ光沢が出にくく、また完成品として使用している場合も傷が付き易く、また宝石付指輪の場合、宝石を止めている部分がゆるんで宝石が脱落するという欠点があった。

また後者の白金-パラジウム-銅合金は、前記白金-パラジウム合金と同様加工性に優れ、その上機械的強さに幾分優れていて白金-パラジウム合金の改良品が、鋳造時に鋳型と反応する為、細かい模様が現われず、不鮮明になり、しかも酸素濃度を抑制できない為鋳果が生じたり、大気焼鈍後に変色したりするという欠点があった。

本発明は上記欠点を解消せんが為になされたものであり、耐汗性、耐変色性、加工性は勿論のこと機械的強さ、鋳造性などに優れた装飾品用白金合金を提供せんとするものである。

本発明による装飾品用白金合金は、白金84～96%、パラジウム1～13%、コバルト0.01%以上で1%未満及びグルマニウム、シリコン、ジルコニウム、チタン、タングステン、

モリブデン、バナジウムの少なくとも1種総量で1.5～5 %よりなるものである。

本発明による装飾品用白金合金に於いて、コバルトを添加した理由は、装飾品用材料としての加工性を損なわないこと、鑄造時に鑄型と反応しないこと及び鑄造時に酸素濃度を抑制できることとの条件を満たし、機械的強度及び鑄造性を向上させる為であり、その添加量を0.01 %以上で1 %未満としたのは0.01 %未満では機械的強度及び鑄造性の向上が低く、ほとんど見られず1 %を超えると大気中で焼鈍した場合、変色したり、耐汗性が低下するからである。

またゲルマニウム、シリコン、ジルコニウム、チタン、タングステン、モリブデン、バナジウムの少なくとも1種を添加したのは、これらの諸元素は白金やパラジウムと金属間化合物を作り、耐汗性を阻害せず硬化して一層機械的強度を向上させる為であり、その添加量が1.5 %未満では機械的強度の改善が殆んどなく、5 %を超えると加工性が悪くなるからである。

成分組成 (%)	焼なまし後の硬さ (Hv)	鑄型の細 かい模様 の再現度	銅素 の発生 度	大気焼 鈍後の 変色度	耐 汗 性													
						Pt	Pd	Co	Ge	Si	Zr	Ti	W	Mo	V	Cu		
例1	90 8	0.4	1.6												242	良	低	優
例2	90 8	0.2									1.8				285	良	低	優
例3	90 7.5	0.5											2		291	良	低	優
例4	90 8	0.5												1.5	253	良	低	優
例5	90 6.9	0.1	1.5						1.5						307	良	低	優
例6	90 6.9	0.1	1.5							1.5					315	良	低	優
例7	90 6.9	0.1												1.5	301	良	低	優
例8	90 10														75	普通	普通	優
例9	90 5														103	普通	高	良
実施例																		
従来品																		

また、本発明の装飾品用白金合金に於けるパラジウム含有量は、機械的強度、価格、耐蝕性、鑄造性等の点から1～13 %が好ましい。

以下本発明による装飾品用白金合金の効果を明瞭ならしめる為に実施例及び従来例について述べる。

下表の左欄に示す成分組成の実施例例1～例7の装飾品用白金合金と従来例例8、例9の装飾品用白金合金の硬さ、鑄型の細かい模様の再現度、果の発生度合い、大気焼鈍後の変色度合い、及び耐汗性について、夫々大気中900℃で1時間焼なまし後測定したところ、下表の右欄に示すような結果を得た。

なお人工汗の試験は、 NH_4Cl 15.5g/L, NaCl 120g/L, 酢酸 2.5g/L, 尿素 5g/L, 乳酸 15g/L, PH4.7 の液組成で液温40℃, 240時間浸漬後判定した。

上記表で明らかなように本発明による装飾品用白金合金は、従来の装飾品用白金合金に比し焼なまし後の硬さが硬れ、鑄造した際の鑄型の細かい模様の再現度合いや果の発生度も極めて優れていることが判る。また耐汗性や耐変色性についても従来の白金-パラジウム合金と同等その色がないことが判る。

以上詳記した通り本発明の装飾品用白金合金は、従来の装飾品用白金合金の特性を害することなく、さらに加工性、機械強度、鑄造性を向上させているので、従来の装飾品用白金合金にとって代わるのできる面期的なものと言える。

出願人 田中貴金属工業株式会社